

最終評価

長野県梓川高等学校

5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない
 2: やや不十分 1: 不十分

*「評価項目」の数字は、重点目標の項目番号。

領域	対象	評価項目	評価の観点	最終評価(成果と課題)	評価	具体的な改善策・向上策
教育活動	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	生徒の要望や進路状況に応じたカリキュラムの研究・検討を行い、コース制の改善を図っているか。	コース制については見直しを含めた議論を行い、ビジョン委員会に検討をゆだねた。教育課程については、選択科目の名称変更・選択講座の帯の変更などを行い、来年度の教育課程の決定を見た。	4	・進路状況の変化に応じ、新しいコースも視野に入れたコース制の充実を図る策を検討の必要がある。 ・生徒の希望・実態に合う科目設定を検討することとともに、より高い意識で選択させる指導が必要。
			学習指導要領改訂を見通した教育課程の研究・検討を行っているか。	新学習指導要領に基づく教育課程の作成に着手した。	3	・新課程について、さらに研究・検討を深める。
	学習指導	(2) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	授業担当者は、基礎・基本の定着に向けた授業改善に取り組んでいるか。	講座別授業では、個別指導がしやすく効果を上げているが、クラス別一斉授業では、個々の指導にまで手が回らない状況もある。	4	・授業マナーの改善を促しながら、一斉指導と個別指導のバランスを図り、繰り返し基礎の定着に取り組んでいく。 ・生徒の理解度を常に意識する。
		習熟度別授業と個別指導の充実	授業担当者は、生徒の要望や理解度を把握し、習熟度別授業、個別指導の充実を図っているか。	少人数授業や講座別授業では、生徒のニーズに沿った個別の指導が比較的效果を上げている。	4	授業に参加すればよいと思っているだけの生徒に対して、意欲を高める指導を行いたい。また、授業だけではなく、補習や個別の課題等も取り入れていく。
		学習目標の明確化	明確な学習目標を設定し、年間を見通した計画の中で、1時間ごとの授業への取り組みを指導しているか。	わかりやすいシラバスの作成に努めるとともに、学習に取り組む姿勢に注意を喚起し、チャイムスタート等で授業マナーの改善に努めた。	3	・授業中やHR掲示などを使っての授業マナーの改善の呼びかけを今後も繰り返し実施して、意識の向上を図る。 ・教材の工夫も必要である。
		授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業改善に努めているか。	定期考査等の結果を踏まえて、教科ごと授業担当者ごとに生徒の理解度や定着度を把握しつつ、向上に努めている。	3	・授業アンケートを2学期後半に行ったが、生徒の授業に対する意識や関心の度合いを把握し、改善向上に努めるにはやや遅かった。来年度に生かしたい。
	進路指導	(3) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年ごとの具体的な指導目標を設定し、生徒一人一人の進路相談の充実を図っているか。	1年にジョブカードの普及を兼ね進路学習に取組むも、興味関心に合致しない面があった。2、3年生は例年通りの取組みができた。	4	・1年に対する進路学習の体系化の研究が必要である。 ・就職難の時代であり、1年次から学習への意識付けが大切になる。
		多様な進路希望の実現と職業理解の促進	キャリアガイダンスや職場体験などおける職業理解の促進を図っているか。	学年と共に例年通り行っているが、経済雇用状況の悪化で、不本意ながら進路変更せざるを得ない生徒も出ている。	3	3年の就職希望者に対しては、よりきめの細かい指導が必要である。 ・進路選択の幅を広げる指導の工夫が必要となっている。
	生徒指導	(4) 基本的な生活習慣の確立	全職員が一致して生徒の指導に当たり、集団生活のマナー遵守やルールの理解を指導しているか。	授業態度改善の取組み、全職員の当番制による昼休みの校外巡視を行うも、問題行動は減らない。	3	問題行動の処理に追われる現状であるが、事案発生を未然に防ぐよう、クラブや清掃等それぞれの場面で指導する。
		生徒相談体制の充実	生徒相談体制を充実させ、多様な悩みを持つ生徒の支援を図っているか。	担任と連絡を密にししながら、生徒支援に努めている。学年も生徒とのコミュニケーションを大事にしている。	4	・職員間の連絡を密にし、養護教諭等と連携を図りながら、体制を整える。 ・メンタル面でのサポートが必要。
		メディアリテラシーの習得	携帯電話やIT利用の、ルールやマナーの指導を図っているか。	ホームルームを通して注意喚起。また、教科情報でも取り組んでいるが、一部にマナー違反が見られる。	3	・映像資料も利用しながら、情報機器の安易な使用に伴うトラブルや危険について啓発する。
	生徒会	(5) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、規範意識・責任感・自治能力を育てているか。	生徒会執行部は文化祭を通じ自主活動の力を付けるが、一方でクラブ活動を続けられない生徒が増加。	3	・生徒会執行部のスムーズな引継ぎができるよう指導し、活動が停滞しないようにする。また、クラブ加入率の増加を図る。
学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	・各行事ごとに反省のアンケートをとり、次年度への課題を明確にするように努めている。	4	・教育懇談会、学校評議員連絡会、学校評議員個別聴取、および生徒アンケート等により、広く意見を聴き学校評価活動の充実を図る。
		(2) 情報提供	HP等を通じ、本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をしているか。	・HPは内容の充実と迅速な情報公開に努めている。地域高校として地域との情報交換に努めたい。	5	・HPのさらなる充実と、紙媒体を利用した情報発信にも努める。 ・職員全体の意識向上が必要。
	地域連携	(3) 意見交換と反映	地域の声を聴き、教育活動に反映しているか。	・本年度も地域モニターを委嘱した。(8月)その声を本校教育活動に反映していきたい。	3	・教育懇談会等の意見を今後の教育活動に活かす。 ・PTA活動の活発化。
		(4) 教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	手話講師の活用、読み聞かせ、バルーンアート等総合的な学習の時間で、社会人講師活用が計画通りなされた。進路体験講話も同様。	4	・合併により松本市の高校になるが、今までの地域とのつながりを断ち切ることなく地域と相互に協力できる体制を継続したい。
	校内研修	(5) 授業・学習指導法の改善	授業・学習指導法の改善を図るための、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	・公開授業(校外向け、職員向け)を実施した。(6月)(11月) ・本校卒業大学生の教育実習(6月、数学)があり、本校職員も良い研修になった。	4	・本校職員同士が互いの授業を参観することで、学習指導法の改善に努めていきたい。また、更なる取り組みが必要である。
		(6) 人権意識の高揚・生徒の理解	職員の人権意識の向上が図られているか。多様な悩みを抱える生徒の理解や支援に結びついているか。	・全校一斉の人権学習は一定の成果があったが、日常の中で生徒の人権を守る意識はまだ低い ・「発達障害等の問題を抱えた生徒への対応・支援」についての研修会を行った。(9月)	4	・人権通信の発行や総合の時間と連携して啓発していく。 ・可能な限り職員研修の機会を増やし、具体的な事例に沿った内容の研修を行っていきたい。 ・発達障害への理解度は深まっている。